

筑波大学附属久里浜養護学校との相互協力

筑波大学附属久里浜養護学校は、国立久里浜養護学校として、本研究所が行う実際的な教育研究等に協力する目的をもって、本研究所との相互協力の下に教育を行う養護学校として昭和48年に設置されたが、平成16年4月に国立大学等の法人化に伴い、国立大学法人筑波大学附属久里浜養護学校となり、自閉症の教育研究に特化した養護学校として再出発した。

これに伴い、本研究所は、平成16年7月、筑波大学との間に同校との教育研究協力を推進するための協定を締結し、相互協力を実施している。本年度においても、同協定のもと、下記の通り同校との相互協力を実施した。

なお、平成18年3月現在、筑波大学附属久里浜養護学校の在籍幼児児童（以下、「児童等」とする。）数は47名（うち、5名が寄宿舎生）、教職員数は校長以下52名である。教室は、幼稚部教室（12名在籍、2学習室）、小学部第1教室（低学年、24名在籍、4学習室）、小学部第2教室（高学年、11名在籍、2学習室）で構成されている。

1 研究推進に係る相互協力状況

- (1) プロジェクト研究「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究 - 知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に - 」に関連し、PEP-R等の検査を共同で実施した。
- (2) 同プロジェクト研究主催のNISE自閉症教育実践セミナー（北海道、大阪府、福岡県）において、研究協力校としての事例報告等、久里浜養護学校からの協力を得た。

2 研修推進に係る相互協力状況

- (1) 平成17年度から、新たな企画として「自閉症教育推進指導者講習会」を、相互協力の上で実施した。
- (2) 長期研修、短期研修、講習会における実地研修、施設見学を実施した。
- (3) 学校教員の短期研修、講習会への受講生を受け入れた。
- (4) 研究所職員と同様に「図書館利用証」を発行し、自由に図書利用をしている。

3 医療・諸検査推進に係る相互協力状況

- (1) 養護学校における教育活動に資することを目的に在籍幼児児童の視機能評価を実施している。
- (2) 医師免許を有する研究職員2名が、学校医として、定期健康診断、修学旅行事前検診、インフルエンザワクチン接種などの協力をしている。

4 教育相談に係る相互協力状況

(1) 平成16年度に研究職員が関与していた入学選考の方法を検討し、平成17年度の入学選考は、養護学校主体で実施する運びとなった。医師免許を有する研究職員は学校医の診察として、身体諸検査を行った。

(2) 入学者選考における協力

入学希望者等に係る選考の基礎的資料の作成については、学校長の要請を受け、関係する研究職員の協力を得て作成し、理事長を通じて学校長に提出している。

具体的には、入学・転入学を希望する児童等に対し、研究職員（医師免許を有する研究職員を含む）が、入学相談担当教員及び看護師の協力を得て視力等の検査、行動観察及び診察を行い、その結果を基に医師免許を有する研究職員が書式に即して選考のための基礎的資料を作成している。

今年度は、幼稚部入学希望者5名、小学部入学希望者14名、計19名の幼児児童について基礎的資料を作成した。

5 まとめと今後の課題

筑波大学附属久里浜養護学校は、平成16年度から知的障害を伴う自閉症の教育研究を行う学校として再出発したが、それ以前の重度・重複障害教育の教育研究をとおして、本研究所と学校との相互協力はさらなる発展を遂げている。国として喫緊かつ重大な課題である養護学校等における自閉症の教育に資するためには、筑波大学の基礎的研究と本研究所の実際的研究との協同を進めていき、引き続き、筑波大学、学校、本研究所の三者による協力関係をより一層充実していくことが課題である。